

【高知県立大学】

文化学部 私費留学生

氏名：穆 冠宇（ボク カンウ）

国籍：中国



1. 高知県立大学への留学について

最初に入学した時、とても緊張した。しかし、大学の先生や友達は優しく、親切な人たちである。私の質問には、皆いつも親切に答えてくれる。日本のこともたくさん教えてくれた。そして、大学入って、色々なイベントに参加し、様々なことが体験できる。今は大学の寮に住んでいる。中国の友達だけではなく、日本の友達もできた。一緒にご飯食べたり、映画見に行ったりすることができる。それのおかげで、日本にいても、全然寂しくない。

2. 授業について

色々な授業を受けてきた。前期の時、日本文学概論の授業を受けて、日本の説話に興味が生まれた。自然災害と防災の授業で、多くの災害の避難方法を学んできた。それは日本での生活に役に立つと思う。受けた授業の中で一番印象を残っているのは地域学概論である。授業で、高知が今抱えている問題を改善していくために本当に様々な取り組みが行われていることを知った。この授業を受けて、地域問題は政府や他の地域の人々だけではなく、この地域、問題が抱えている地域の人々の取り組みも重要だという考え方が分かるようになった。

3. 日本人学生との交流や友達との関係について

入学する前は緊張した。自分は友達ができるのか、日本人の学生たちと交流できるのかなど様々なことに心配した。今は日本人の友達もできたし、台湾からきた短期留学生たちも友達になった。日本人学生たちと交流して、自分の日本語も前より上手く話せるようになってきた。友達からも色々助けてもらって、感謝している。毎日の大学の生活も楽しんで過ごしている。

4. 高知での暮らしについて

高知の空気もいいし、町もきれいだし、県民たちも親切だし、魚料理もおいしい。今はさくら寮に住んでいる。学校まで少し遠いが、新しくできたから、外観はとてもきれいである。中の設備も新しく、暮らしにいい環境である。高知の交通が不便なのは事実だが、多くの観光地に行くことなく、自分のことをしっかり考えることができる。

文化学部交換留学生

氏名： 莊 景雯（ソウ ケイブン）

国籍： 台湾



1. 高知県立大学への留学について

日本に来るのは二回目で、およそ十一月間でいろいろな体験ができました。初めて家から離れて海外で暮らし、たくさんの方々のおかげですぐ慣れた。大学で日本人と一緒に授業を取るのが最初きつかったが、今はほぼ聞き取れるようになった。休みの時もたまに県外に旅行し、いままでテレビで見た観光地に自ら行って見たら感動した。自分は留学前より日本人らしくしゃべることができるようになったのは一番うれしいことかもしれない。日本語を上達するという一つの目標も達成し、留学生活は全体的にとっても楽しかった。

2. 日本人学生との交流について

話すのは苦手なので、うまく交流ができるかどうかとても心配だった。幸い高知についたら、迎えに来た先生とチューターの方々はすごく熱心で、緊張が解消し、感心だった。学校にいる間も予想以上の知り合いができた。授業、部活とバイト先などで優しく話かけてくれて、少し話す自信ができた。また友達とバイト先の方々からテキストに載っていない方言や俗語を教えてもらい、面白くて勉強になったと思う。一緒にご飯を食べたり、遊ぶのは楽しかった。最近は忘年会と初詣など日本の独特な行事に参加し、大切な思い出もたくさんできた。

3. 授業について

大学の先生たちはいつも真剣に授業すると思う、質問をしても詳しく答えをいただいた。助けてくれた同級生も多かった。ちなみに慣れなかったところがいくつかある。まずは時間の長さ、日本の大学は90分もあり、文藻より40分長い。しかも全部日本語なので、集中できなくなった時が時々ある。次は授業の仕方。全員ではないですが、県立大の先生は白板に手書きで授業することが多い。大人数で授業を受ける時は見づらいし、新しい設備ができたのに、使えていないのは少し残念だと思います。最後は学生の態度。日本人の同級生は台湾より真面目だったが、授業の雰囲気がかたまりすぎると感じます。特に英語の授業で自発的に質問に答える人がほぼいなかった。もう少し明るくなり、授業が面白くなったなら集中力も増えると思います。

4. 友達との関係について

友達は大体大学の人とバイト先の同僚に分けられている。大学に入ったばかりの時は、話しかけてくれる人が多く、簡単な中国語でも言ってくれた。休みの時もよく一緒に出掛けて、食事する。また学校の女子寮に近いので、たまに台湾料理を作って交流したこともある。チューターたちもいつも留学生のことを心配してくれて、すごく助かった。留学生の先輩にも大変お世話になった。バイト先の方は仕事以外にはほぼ連絡しないが、暇まかないを食べる時はいろいろ話しをした。学生だけではなく、家庭の主婦やフリーターなどの人とも接触できる。話している中で違う価値観と日本社会の特徴を感じるの面白くて、文化交流もできた。明るい同僚たちのおかげで楽しくバイトした。

5. 高知での暮らしについて

高知を一言で言えば「住みやすい」と思う。毎日きれいな山と川が見えて、生活機能もすごく便利である。雰囲気も落ち着いて、町の人もよく親切に話してくれた。県内の公共交通はそんなに便利ではないので、またたくさんのところに行っていないのは残念だった。居酒屋でバイトしている間いろいろな土佐料理を食べて、地酒は飲んでいないが名前はいくつ覚えた。中国からの観光船が時々来たら、帯屋町近辺は中国人ばかりで中国語しか聞こえないぐらいだった、すごいインパクトを受けた。観光客が増えるのは確かに経済的にいい影響があるが、高知にはいいか悪いかまた断言できない。「高知は何もない」と言う人は今まだ多いが、自分はそうとは思わない。高知にいるからこそ優しい人たちに出会うようになり、代えられない思い出が沢山できた。留学が終わっても、必ず戻りたいと思う。